

第九番

参州本間氏覺書

完

書	57
函	2
部	34
記	8
庫	1

參州本間氏覺書寫



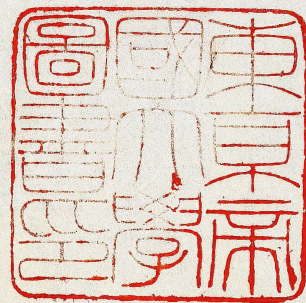
B 24884

全



927-625

參以木間氏覺書



B 54884

參以木間氏覺書寫



大樹寺記

自江淨心

阿倍九郎重門

震曦妙史

内藏金一郎母

道胤

天文四年三月

阿部

鏡清

天文九年六月

内藏善光門

春譽

三月

阿部

一桂善心

弘治三年

内藏市十

岸井道

天正五年

阿部

誓本善願

天正四年

内藏市十

雲林

天正五年

阿部

法雲善海

二月

内藏市十

妙哲

天正七年

大藏母

悅窓啓善

天正九年

内藏市十

至藏

天正七年

大藏父

義卿

天正七年

内藏市十

白峯

天正七年

大藏内

上野

天正七年

内藏市十

阿部

天正七年

大藏内

義昭

天正七年

内藏市十

義亮

西条天正七年

荒川

天正七年

吉良

持清

荒川

天正七年

高野山大德院舊記大概

一源義重公以来師檀之御由

尾州森山御所不立遠山新

堂山

天明八年戊申十二月八日

惠坊入来於江戸上原

後也似法縁てお礼に寄物

右天正九年己酉正月六日

ふりて

ふりて

ふりて

ふりて

ふりて

ふりて

ふりて

ふりて

大樹寺記

自江淨心

阿倍九郎重門

震曦妙史

内藏金一郎母

道胤

天文四年三月

阿部

鏡清

天文九年六月

内藏善光門

春譽

三月

阿部

一桂善心

弘治三年

内藏市十

岸井道

天正五年

阿部

誓本善願

天正四年

内藏市十

雲林

天正五年

阿部

法雲善海

二月

内藏市十

妙哲

天正七年

大藏母

悅窓啓善

天正九年

内藏市十

至藏

天正七年

大藏父

義卿

天正七年

内藏市十

白峯

天正七年

大藏内

上野

天正七年

内藏市十

阿部

天正七年

大藏内

義昭

天正七年

内藏市十

義亮

西条天正七年

荒川

天正七年

吉良

持清

荒川

天正七年

高野山大德院舊記大概

一 源義重公以来師檀之御由決り

親氏公 德阿弥後松平常留門殿

芳樹院殿俊山德翁大禪定門

一 泰親公 三列 松平左衛門殿

良祥院殿秀岸祐金大禪定門

一 信光公 三列山津城之松平松重殿

上德院殿月堂信光太祥定門

信光公御末子師匠通有て明憲三甲寅年上

大月 御堂山為寺、福住、唱阿上、下、号、

後、參列、下、向

一 親忠公 三列女祥城之松平松重殿

松安院殿大胤西忠大禪定門

一 長親公 因安祥城之松平松重殿

棹舟院殿一閑通院大禪定門

永正年中御堂山暫中退家

一 信忠公 三列是清城之松平藏人殿

安極院殿泰春通忠大禪定門

一 清廉公 三列是清松平左近藏人殿

善德院殿年受通甫大禪定門

尾別林御末子遠山新八御林為輔子骨奉依

堂山

天明八年戊申二月八日於山五之室谷明王院周

惠坊入集於江戸法上房友長金對語此中長持

物且云松平忠健古く由緒と寺院と強勸

院也以法縁てお礼と云約縁云 但云松平左近

右天明九年己酉正月六日為經方 英義書通

と云々寺傳の通と云々(再)と云々下つて署名

ありと云々

後永正五年

一 牧内村古城 文龜九年 牧内右京亮忠高

一同 享祿元年十二月七日 松平左京亮張

一同 天文三年正月十日 松平左衛門忠善

一同 永正十四年正月三日 牧内源市 文親

一 冬列園村 棟札、大目形松平右

文明十年トアリ

大樹寺元 享祿元年十月九日 松平左

一 享祿元年十月九日 松平左

石川御所 松平左衛門

上田万六、又次

享祿八年二月十九日卒七十九

二 葉松云

一 宝飯郡赤坂古松 松平左衛門忠高

一 設楽郡市場也 古官城 甲別馬場氏領

大樹寺記

自江淨心

阿倍九郎室門

震曦妙史

内茂金一郎母

鏡清

天文九年

内茂善左門

道胤

天文四年

阿部

阿部

春譽

三月

阿部

阿部

岸昇

天正十時

阿部

阿部

雲林

天正十時

阿部

阿部

妙指

天正七年

大藏

大藏

玉藏

天正七年

阿部

阿部

白峯

天正七年

大藏

大藏

吉良歸持清 九京

一 彰泰重公來御時之御由也

高麗山大樹寺

一 牧内村古藏 文應元年 牧内右京亮忠高

一同 享祿元年十一月七日 松平左京亮張忠

一同 天正元年二月十日 松平八郎正忠善

一同 永正十四年十二月 牧内市之次視

一 冬列園村之持札 大且松平右馬助

文應十年十一月 松平左京亮

大樹寺記

石川町

上田町

永祿八年三月十九日卒七十九

一 飯沼村古藏 松平信忠之次親 長次親

一 設楽市場也古官

一 設楽市場也古官

大樹寺記 天正元年己卯四月

梅省道春

能見次郎光親 若名次

天正六年八月 諸君被列赴玉了特供奉

石川寺七郎

松平左一郎

天野又五郎

同三三

村我三郎

同七之助

同新四郎

同新四郎

中傳曰、山莊を築き、二代、是中、生、死、を、觀、る、を、

高臺山道

一、三列額田郡墨崎所、古、八、發、生、村、と、築、山、殿、之、東、北、の、分、
、此、山、庄、の、入、り、を、佛、發、生、の、の、同、郡、比、志、賀、の、所、と、次、
、言、神、發、後、の、所、泰、因、越、後、刑、尸、懸、所、也、記、應、永、年、中、に、本、
、城、後、の、所、知、る、所、と、發、生、と、い、は、築、山、殿、之、近、又、と、い、守、
、護、新、田、殿、應、永、十、に、年、の、以、一、色、修、理、本、寺、復、同、と、十、
、年、一、也、大、京、大、吏、守、復、文、安、元、年、二、月、六、日、迄、流、文、
、墨、崎、惣、持、と、傾、也、と、右、築、山、の、流、文、と、を、傾、古、に、墨、崎、
、村、發、生、と、い、

築山

一、墨、崎、之、城、開、基、文、安、元、年、迄、發、生、と、い、惣、持、と、い、後、流、文、
、の、所、也、と、後、に、傳、小、享、德、元、年、以、大、多、の、城、之、西、に、清、海、

言

松口

西に流るる河、頼嗣入る清海に

發、生、の、所、は、山、と、是、立、南、に、菅、生、門、西、に、流、を、か、こ、り、北、の、
、方、東、に、面、と、堀、と、い、堀、と、築、と、い、龍、の、城、と、い、自、是、岡、
、邊、の、城、と、い、云、今、中、丸、の、東、西、と、清、海、堀、と、云、其、以、西、郷、
、澤、に、た、ぬ、新、頼、築、山、の、流、文、と、西、に、澤、に、た、ぬ、の、と、い、流、文、と、
、但、年、号、ハ、那、

築山

一、其、以、同、郡、岩、津、安、城、の、城、主、に、松、平、九、京、進、親、忠、と、墨、崎、元、合、
、度、と、合、戰、と、い、り、時、又、滝、山、と、真、福、と、の、位、寺、扱、い、親、忠、と、
、合、戰、松、平、紀、伊、と、光、重、と、智、叡、子、と、墨、崎、城、と、讓、親、此、
、以、後、墨、崎、岩、津、一、味、と、い、初、澄、と、親、忠、と、文、政、七、年、二、月、
、大、樹、と、開、基、と、い、

墨崎元合度

一、西、に、以、後、と、墨、崎、の、城、主、松、平、紀、伊、と、光、重、と、二、男、と、惣、持、
、と、大、馬、外、親、貞、次、男、と、い、大、馬、外、貞、二、男、と、近、江、監、と、い、云、云、
、元、應、永、年、廢、

丸山元共

死

心は快
 之貞光と在判
 小帝紀傳入彦太皇太后
 女令年中是海城已西
 ナリと修城ナリ長寧元年十月
 方足形永定元年男貞嗣幼年
 後明後天皇城後永定元年正月
 帝

田三高成光
右馬允成守
心是村
牧地傳主高成敏

親負 たる久長有り長後ニアリハ
公親 師父傳ト與テ譲リ
忠親 大なる御法名四久

永正二年信忠公時代今川氏親之勅又御在之河今橋又
取惣合戰城之牧野古曰付死今橋之後と在因て云氏親也
又属其地之西之河山中明太山矢作云々云云此とき常子
明源も招ひ和談又成松平忠家今川氏親旋りて是處成
同年土月十日常子源より今川氏親到れり云々今和橋

没是以後永福と云ふ人
之壽を以て救ふる永

兄たり又大樹寺あり

永正年中分家永福元年

一右是傍城に松あり記に

飯形原と云ふ城あり

大樹あり末光堂あり云

大樹あり沈文あり

天文十九年正月十日

一是崎城代松平左馬

清康公と云ふ年

男二人あり松平七郎

大内氏先祖書

清康公は松平左馬

清康公は松平左馬

清康公は松平左馬

清康公は松平左馬

清康公は松平左馬

清康公は松平左馬

清康公は松平左馬

清康公は松平左馬

清康公は松平左馬

清康公は松平左馬

清康公は松平左馬

清康公は松平左馬

清康公は松平左馬

清康公は松平左馬

清康公は松平左馬

清康公は松平左馬

清康公は松平左馬

清康公は松平左馬

清康公は松平左馬

清康公は松平左馬

清康公は松平左馬

親父
忠親六郎
忠親七郎
忠親八郎

大内氏先祖書
清康公は松平左馬

元徳哲言詞ヲ取り
大内氏先祖書

果本松谷
又同松谷
又同松谷

付
松平左馬

松平左馬

松平左馬

松平左馬

松平左馬

松平左馬

松平左馬

松平左馬

松平左馬

松平左馬

松平左馬

松平左馬

松平左馬

松平左馬

松平左馬

松平左馬

松平左馬

松平左馬

松平左馬

松平左馬

松平左馬

松平左馬

松平左馬

松平左馬

松平左馬

松平左馬

松平左馬

松平左馬

松平左馬

松平左馬

松平左馬

二葉松云

永正元年九月廿二日

永正元年九月廿二日

永正元年九月廿二日

永正元年九月廿二日

永正元年九月廿二日

永正元年九月廿二日

永正元年九月廿二日

永正元年九月廿二日

永正元年九月廿二日

永正元年九月廿二日

永正元年九月廿二日

永正元年九月廿二日

永正元年九月廿二日

一 湫田村の令水より水車陸を字新へ水九城より所より河長後
 備代岩瀬底名馬と云者寧人として此城を籠りて之を清康と
 云ふ事ありて返り志し城内を籠りて居るは同年
 春田戸田令七郎立派の時正是村に牧師傳を來清康と
 云一味一在田より忽ち戦家源二年五月十八日落城自是
 在田之城牧師傳を來立城又合戦天文元年に云あ度より
 一享祿四年松平六代義人信忠云七月九日以後二果うて
 遠近到大樹寺七代泉登上人號香淳子一女二男あり
 水惣氏八清康公忠隣に城より次男の二女と城より松平
 義人信孝三男清井西と城より松平十郎之節康子と父
 十年三月十八日清病死源を改と云清井墓松平義人
 信孝の墓又十七年四月十番明方より村より北松平九郎

十七年

松平世系類也

一 清康公忠隣法立城の時より妻城麻呂松平九郎長家
 親忠之極井之城松平玄蕃親房親忠之此次岩津城代内膳
 信定從理進長則日茂七郎忠信井田城足達在馬元親家
 茂井城代松平嘉信常利長能見城代松平治部右馬友親牧
 田松平甚六郎康公因右京元弘忠池沼城年岩元京進光
 忠渡之城に多井中將小川之城石川修澄修文也康成田西之
 至浦城年多沼八郎正信後彼渡是時計時又沼井元馬尉太
 善此外數多畧之但沼井將監天文十五年上野之城より
 沼田の城より沼井元馬福
 一 其以之別ハ今川旗下取一之別ハ五郎平と云侍者
 良持廣茂虎列藏清家と云一之別ハ今川旗下取一之別ハ

酒井元馬尉康成
 兄也

此時駿兵と二列と荒川甲斐守城と根城と一と東城
と西と出合八面之大二山之通辺と之廣くと我此時持
廣成と之也一敵中に入らるる永中と即ち天文八
年八月二日荒川山合戦と死持廣食實と照と八駿
河と月と西城と八牧野新次郎東城と八安富永中
と即ち城守と八廣忠と城番此時是時と満性も、此後
候之中して此礼御書と成下此寺候と後通甫時不
相別義と不可と之者也、傳と廣忠と判松とと成
と今不持と廣忠と判形と始也

一 廣康公西之河寺社と即ち、何と成出判形と、今と云
満性も、龍海院と寺と廣忠と寄と仰と道甫とと
有と後と多の也又、是時傳と寺と廣忠と判松とと成

元田跡
家名也

為中文、立葵又大樹と塔とと柜と世良田次郎と節廣康
安城田代是時廣天文二年二月九日と云々

一 廣康公是時法在城と時と河田不孫也、即ち西之河と成
方と此門歴と并此後代元敏と多と今川也、族本也其
以尾列八藏田傳後と伝秀とと之、初と境と是、此と迫合
是、傍迫迫上地列と全安城と、傳廣康公と尾列境岩
崎森山、廣戸、此地迫と、傳終又森山と、天文四年、松月
二日、安城、此七節と害、但是、傍と傳上地、廣公と全、戰、時
此、云、此、後、西、之、河、此、一、門、此、傳、代、元、敏、也、
あり

一天、久、巳、年、土、月、七、日、藏、田、家、分、大、群、と、三、列、と、傳、大、樹、寺
迫、多、也、本、陣、と、九、酒、井、左、衛、尉、傳、田、と、城、と、出、合、是、時、傳、と、同
出、戦、ひ、藏、田、家、討、負、矢、傳、河、藏、尾、列、と、引、

秀海毎月鳳来寺に代奉也天保二年尾羽上野城に伊勢守河内友房が
日勝寺を築き居りて城を以て其の城を多賀

一 同年初月五日神君公忌時水城凡各々御祈る由誕生此
時大演称名寺に於て水谷と竹代代極とを号

一天文十二年三本城より松平衆人信孝逆心忌時より九城より
本合戦同年六月三本城城計時大竹信光田中根孫を討て

感謝の事下三列中根氏方と相持也感状ありと云々

一 同年安城縄より合戦千時中多吉原を討死
云同年廣忠公清室に離別

一 天文十二年二月朔日素子以源より勢を伏し下廣忠公
別と云々千時相持

一 同年安城合戦より安城より虎石の兵有りて廣城より
二月

一 同十五年正月廿五日淨明寺に御参を伏し是を因に廣忠より
以成同六月龍海院建立此由事と云々

一 同年上野之敵此内廣忠
賀大將より信勝上野押懸廣又より陣取合戦此時中

根甚太而池中をくぐり上り栗田より合戦と相打ち
十一ヶ所底を破れ栗田朝田市堀際よりと柄成矢と放

矢仰ぐと返り討けぬ栗田より合戦ハ敵衆より臨田路よりと云々
下城を越え廣忠公又逆志ありて九月六日落城計時令

田惣八郎二十と打ち死為著提大村より末安養院建立
別強又より討て後河井相監上野より任同年今も堀より

田金七郎を城内十月後兵下是時より橋より押寄合戦
此時石川或より酒井將監阿部公義未春田に働り城を攻

此時より山居に
前より成出
此より
一 柳原より松平
古名松平又九年
七月五日松平内振
下下合戦の時
記ありとアリ
此より
一 松平内振
又々より
二月平トアリ

金田相公

天文九年七月 松平内膳宗信定上時城を落し城外
に度々を來り來りし戦の時記也

金田相公

後忍原 壬辰の役 壬辰の役 壬辰の役 壬辰の役

天文九年九月松平内膳宗信と赤松氏の時記也
徳川歴代 天文九年九月 竹中氏 赤松氏 時記也
戦ありし時記也 壬辰の役 壬辰の役 壬辰の役

金田相公

元龜三年時方 赤松氏戦の時記也 壬辰の時記也

金田相公

永禄六年九月 赤松氏一揆の時記也 壬辰の時記也
おろし 壬辰の時記也 壬辰の時記也 壬辰の時記也

金田相公

六年秋 赤松氏 壬辰の時記也 壬辰の時記也 壬辰の時記也

此の時 赤松氏 壬辰の時記也 壬辰の時記也 壬辰の時記也

天文十七年三月十九日 今川了俊 織田信長 赤松氏 壬辰の時記也
谷本 今川了俊 赤松氏 壬辰の時記也 壬辰の時記也 壬辰の時記也
安城 今川了俊 赤松氏 壬辰の時記也 壬辰の時記也 壬辰の時記也
吉石川 今川了俊 赤松氏 壬辰の時記也 壬辰の時記也 壬辰の時記也

天文十七年四月 松平内膳宗信 赤松氏 壬辰の時記也 壬辰の時記也
赤松氏 壬辰の時記也 壬辰の時記也 壬辰の時記也 壬辰の時記也
赤松氏 壬辰の時記也 壬辰の時記也 壬辰の時記也 壬辰の時記也
赤松氏 壬辰の時記也 壬辰の時記也 壬辰の時記也 壬辰の時記也
赤松氏 壬辰の時記也 壬辰の時記也 壬辰の時記也 壬辰の時記也

文保園

打死也。但加。及。堀。永。福。七。年。三。月。十。六。日。發。生。二。次。

康時香塲の子成下但し不塲にハる人塲迄世所ハ

水之古老云たり又さう久（紅）坂云ふ所

八年正月尾より駿河に中々と安傳ふものなる

天文十八年三月六日廣忠公長子與孝官劉景濤大樹

又大演の依久留果を家来とてえかへて廣忠とせよ

と成道者爲人知と後分ちた飛出と去れ
愛と大い

方々たる所
者依久居を討
討九討
文十八年十月
市

云云判の字一又天又十九年又十餘字ハ各ハ右補

別天父十九年十一月十三日治於南立天地系七帝及

又云六韜分卷云

十有年成邑為舍我子九月十八日瘞良莖川以云

後田今川と合戦を其外荒山と九度の合戦を以て
之記分^失知^主。年十月所宿大坂の安城と素麻城と
之部大郎生捕計時素子明源も出振中竹の代公と入質
と望也。駿河市向る

一 所部大龍定春天文十八年十月廿七日死云計時内家老
之酒井初監同与之部清秀同左馬出當り天文年中
五郎初と天文十六年六月廿日死云と石川安房忠
成素未致後年酒井初監同雅素初同左馬尉天竺清魚
清太馬^原康弘と之弘治三年十月十日死云石川安房
素未致後年酒井初監同雅素初同左馬尉天竺清魚
柳原孫七^{後藤孫}右式通院又島修治又中ノ郷淳
妙寺子云々

一 酒井初監^{後藤}清秀
秀后内通助
十号天文六年
十月廿四日卒是
也
弘治三年
元禄二年

妙寺子云々

一 岡崎八分川法旗下と信幸駿河分法仕並とて天文九

一年義元是時満姓寺の制札も同く三年十月二日義
元大樹寺の出家とて狀云の中宿家福と山中法親と奉
母長高も是時大家と此外教多きと由

弘治二年二月廿日之品日迎合戦元信公十五歳初陣麻生
阿院と東院此市之列又迎合多きと同年駿河へ去
乙松平義人依元康公と市中

永禄元年七月と初法旗松平義人依出陣并大樹寺合戦

此時大樹寺分法旗出

同年六所大所神出送愛并七月十七日元康公出到大所松平

此のころとて

永禄二年元康公尾品大と代同年二月十六日義元法親

水月古鑑云
弘治三年五月
氏郎之列す
今も旗下果
生は監と付
早も之信
長敵也
ヨリ也

寺に寄進状あり

一弘治三年蓬生の小幡源一而素梨村粟生と知村と
事あり同七月大幡戸を備並列小幡源一而後と
久に遠

一永禄三年佐長吉良と働大元月廿五日吉良実相吉
士雲加盤焼失此吉小幡我氏開墓山を一回師也

一同年三月十八日蓬生村小幡源一而吉氏並在列
蓬生念楊源大馬方より同九月十六日彼又同通物と
後右通將監輝平より此を親者と三列を

一永禄三年九月今川義元三列川原と押越り泉田村
赤陣元康公大なる吉高川原小幡源一而吉氏並在
水村原より吉高川原より依り有り

石川武義義基子代
石川武義改康南

石川左兵衛親康

松子親忠名次

石川左兵衛親康

石川信実忠輔

石川信実

忠沙君
石川信実
長親忠輔

忠沙君
石川信実
長親忠輔

東郷平親名正

石川信実

石川助市忠家

石川信実

慶長三年十月石川信実

石川信実

石川信実

石川信実

石川信実

依之

死

後

六

七

八

九

石川信実

三
 二
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

一信長の臣唱海の城主山口久馬元今川義元は属し既土着子
明源と所部と次右馬次分言上を返状今小菰子に依之
大なる毒城今川よりなる

一永禄三年六月十九日義元尾列桶をうめて討死
後其乳西三河^{義元の迎駕あり}に落ち來り

一 永祿三年 唱海の^{義元の進習あり}是詔常玄諸長教佐長上致城海
りり又刈谷の水腫^{尾張}茂九郎守世を責^{尾張}藩首を丸氏六守
之永祿三年六月八日感状なり 強ふ

一、二筋橋井堰は松平監物佐廣義元并死之役より後井亡し物
を以て大高元康公と稱せりけり此の所ハ南玉碧海頭之ノ
輪村より出づ又ハ流々泉と云流々泉根にけりといふ所も噴
き打死亡く物初めは極井に水拍是より浸水腫り腫る

一 元康公同年正月大旱北山旁之川横投木石多由大樹
下以出是後川爲城之川度番後見其時之川大祀
是出并西村孫虎雷川案内事也

一永祿三年二月十八日氏真蓮生村江澄文所書同七月九日

松年郭人佐元康山中法苑寺寺多壯制札云

一因年秋僊長公之召吾良之慟大溪又為序之康公亦大溪

出陣此時童子明源寺也叔^五和後^五成又同年信^五元

一、同己年暑後より中増の板倉深心と合戦因（一九四〇年七月九日）九月十三日午後

有心者而發繩子山子不終之語城中多豐後寺臨代河并大魚一厨八
 我門事
 是海又極板念深正九月十日告落城又廣漸出矣除完
 忠門兄弟
 順德元年四月十五日
 計元松寺主

文龜九年八月三日卒

九工門倦

但馬守

天文二年壬戌九月卒

政 孫太史
天文十八年三月四

松平信忠 筑前

天
平
子

即法名正琳元仲尼

將監上

生之

水國列

海客大衆

同六年

二月

五成稿

...

大和泉守定家直子致局大河内源三郎入彦造家

是宣王孫名休也天條三三三
帝辛法名尊英

水野孝司先生教室 后号玄應尼
廣惠公北方

永祿二年九月六日卒
華陽殿玉柱宮女
女子
傳道隆定之

卷之四

卷之五

康乙 康忠

為學長水李元九至六月六日記
信為祥忠

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

平久庵之東山 中傳卷三

壽 萬 年 永 福

帳三和込のたせのたせの

石上野乃子
今在存分

進名多一十年至正月一掃

子明源寺の墓も亦家原

修之方即此也

二樓永祿六年九月六日金田照正祐
 一二月廿五號奉金田討伐同月十九日
 同七年正月十六日里間山航之助長木原
 同三川于市布施孫女高雲子親來十内

一 元康公同年乙卯大室北山より横段なるより福大樹
より水出是邊より爲城之川及番後より此所より大祀
是所より西村孫左衛門内業内よりと

一 永祿三年三月十八日氏真誕生村に澄文所が同七月九日
松平郷人佐元原小中法親より多々忠制札に書
一 同春秋信長公三君書良の勳大演文が傳へる原云々大演

出陣此時童子以源守腹中
和漢書為又同年信

[illegible]

蘇軾
子瞻
蘇軾
蘇軾

昌安公移樓
大元三年三月廿四日
九月十一日
昌安公移樓
大元三年三月廿四日

永新三十四年六月十一日
永新三十四年六月十一日
永新三十四年六月十一日

文選卷八 賦三 百華
卷八 賦三 百華

天曆二十三年四月廿六日

右衛門拂菻坂与合戰又西刻支城上ノ山城轉及第是山ノ
藩形ノ城也ノ部五部形原幡頭方ニ水傍西ノ河大形
水ノ属一國年後河分内室并若殿是崎水入内室浦
築山ニ之計已後築山極ニ云若君孫後ノ是崎ノ部佐原
公ニ之ナリ

一因五年酒將監上馳文以同年元康云東之河永勸當正
月侯長亦出仕以成康康云云市中永陶到碧元永祿
五年以前之永陶到八永池之八幡之神主明太寺大井氏又
有之市到品法大康云云
永祿五年三月十四日條田村
大橋屋長馬乃云云

一永祿元年、今同六年と云ふ所又迫合多し。六年五月、今一揆
起り、七年之三月、流同年、常子、明海寺の思如寺、家康
中、不忠、是時、活城、之禍、今之増上、之方、即佛、是也、此、不忠、

一永祿七年、在國城、小島肥前守、立城、近々、人質、丸龜城。

同年在西河升唐尉先陳度合戰同八年二月落城

酒井大守尉在城長沢之城者也其時三國平均之
 事也之立之方大守成景亦多能大守王時之序云也

一日九年、公志願、又、入、同年、三月、十九日、任、三河、西之河、寺、万
冬、河、守、之、所、寄、之、方、之、あり

一、元龜元年、淡路・沖城に雷鳴あり。倉橋勉然魚を釣す。
地震あり。天竺の石垣崩れ、象り同七月、亦有死民。

一 元氣元年分家康云漢松法在城昌勝八也題似昌勝

九月十一日呈張總督議

家康公 元龜元年二月、淡路城に移徙あり。是常江右ノ上之

普信寺

町京仍松平新藩江戶右馬七太墨陣尺帛也家康公是

討後内子城天文十八年分此年迄廿二年右の内子城永福之
年分此年迄十一年行落二之元年漢松ノ城内常鎮守ノ金保之
地農ノ子乃石匠成爲

（元龜二年甲子朔）社山伯耆書之列名澤、新張城之松尾連而

松平右馬頭後孫次右馬頭卯胆安右馬頭福寺丸右馬頭

勢小戰慄方付負事山勢更付此此以八神君公溪松城
中福恩濟六三節信廉公九在後也

青心樓先生教同社友后答又同年友又同社友同社友同社友
史忠我 忠門先生 義門事 前出忠門 也

先帝遺我，虎狼之心。甲列方今，壯勳十帝。中允爲之討，江源之
志，身命未盡。此不投海，多山代以清潭，是乃與之解。

一 元龜元年分天正七年迄十年是洛之三市位原之所在城伝康之
遠別二役傳之云云云云切後

一天正七年分同十四年迄是洛城代石川伯春中殺之為年
是洛遷之石川康親之立除吉田より酒井左馬保脊馬
云云是洛明久一掃障也

一天正十四年分十九年迄是洛城代多佐左衛門

一天正十九年分慶長六年迄十一年是洛城代田中玄龜猶在後
為年是洛之西の沼田よりぬ所成時其時西尾玄白又
内渡統後而整城外東西為城に於其年又出來同矢倉
門に出來

一 慶長六年分同十六年迄是洛城之由多其後も唐孝代
城より出來其時分矢倉一統

川記 慶長二年十月九七日より多其後も唐孝年又七十一年と云

一 慶長十六年三月分元和九年九月迄是洛城代多平後守
康重此代是洛源之守

一 元和年中是洛廣之出來同九年九月分正保二年二月と云
其二年多伊勢守忠和是洛在城此代城南川端に石垣
西掘り出來也

此所迄一筆之書也 本間三郎五郎重豊白書 欣

斗八味 桃

古

久石

不

毛呂富尾 排久保小楠麻生赤田輪
 切山田堀 各内柳田竹匠蓮三井
 木下 是言村忘見鄉下去多有少書誤也

若令内之域ハ其右門入道を佛言祥院之師也之後奥年

監起后久未弘治二年松平甚老而為法名氏角江魚
作時麻生村細助之田虎占中而家康名師旗立

日遊虎竺丹と神谷虎馬小楠村浦耽久遠毛居大山虎
角竹月虎多山内角年角虎莊耽助之系柳田浴木

想々木槓山之面石也
此槓山は別分段所也
和合村キ子付ト云云位又

一水腫太師仍家康云水腫者大足反六也打九紀初之水腫

一、今、金銭が去り底を叩く中、八家康公は去る之跡尾房を切
既ち叩き去るとして耐えざる倒れて之を以て後渡り申す

須成を名に去丹底を打て可きと云はれし時赤泥村に
六分の土を據て居りし所を水は腫六人附て松葉を燒

く宿は居たり。渡巴業中せ、強ト云々テ事終也。時能
來り先より強ト云々時六人し者表はしあて思ふ事ありて居

花月、今日家康を討て申、所家も傍て難成申、就
 丈之方を討て来り、是情にて仕へ申、乃ハ其におまへ

是後、
可仕、
中内、
丸を、
控へ、
— 投入、
竈、
下、
— 追外、
や

一 豊津七ヶ村森越山郷大友醜小針為目 興越

一 大樹寺之山澤田を根と云ふ山名津城と云ふ九三城
と云々 西郷彈正合戦の場と云

一 永福二年家康公西郊に糧廠を設け攻めし時糧廠を人
仙家乃令と云々 大友乃云云 仙家乃令と云云 仙家乃令と云云 仙家乃令と云云

矢は流るる故に仙家乃令と云云 仙家乃令と云云 仙家乃令と云云 仙家乃令と云云

先可引也 仙家乃令と云云 仙家乃令と云云 仙家乃令と云云 仙家乃令と云云

内仕あり切と云云 仙家乃令と云云 仙家乃令と云云 仙家乃令と云云 仙家乃令と云云

落城也

一 永福二年追討豊勝城代今川公三浦上野介家保飯尾
弥次右衛門牧野新九郎貞成 後左馬助 吉田城之小島紀
前守徳実佐脇八幡板念彈正重貞

一 新城古記に云々 列古渡代後九郎盛長後、西郷

一 同古記義氏矢似、居一色吉良今川細川上野介息之

一 足助、後本越後守武蔵今家孫右馬後、川平之斗居佐

一天正二年四月此田宿頼足助、後本越後守責小桑と云々 指

立此時田代之松平左馬助大沼村之木村新九郎八井村

後本意左馬後、後井之柳瀬之市乃境家老加藤之重馬

而利城代、後本意左馬後、後井之柳瀬之市乃境家老加藤之重馬

天正三年甲戌九月七日武田勝頼天龍山に出現す
 權現様ヨリ示候事被出共名
 天正三年甲戌九月七日武田勝頼天龍山に出現す
 權現様ヨリ示候事被出共名

三浦源

一酒井源

二十市

山合奈

一酒井源

玉淨源

有親

親氏

泰親

天正三年甲戌九月七日武田勝頼天龍山に出現す
 權現様ヨリ示候事被出共名

大久保忠世

松村忠安

内藤忠成

河内忠成

森川忠成

成瀬忠成

後藤忠成

本多忠成

吉田忠成

河内忠成

信田忠成

紫田忠成

親田忠成

内田忠成

柳田忠成

加田忠成

山田忠成

梶田忠成

天龍山

松村忠安

内藤忠成

河内忠成

森川忠成

成瀬忠成

後藤忠成

本多忠成

吉田忠成

河内忠成

信田忠成

紫田忠成

上方討死男

内藤忠成

河内忠成

森川忠成

成瀬忠成

後藤忠成

本多忠成

吉田忠成

河内忠成

信田忠成

紫田忠成

親田忠成

内田忠成

柳田忠成

加田忠成

山田忠成

梶田忠成

天龍山

松村忠安

内藤忠成

河内忠成

森川忠成

成瀬忠成

後藤忠成

本多忠成

吉田忠成

河内忠成

信田忠成

紫田忠成

泰親

家弘

久親

備中守

久親

備中守

久親

備中守

久親

備中守

久親

備中守

久親

守家

久親

備中守

久親

備中守

久親

備中守

久親

備中守

久親

備中守

久親

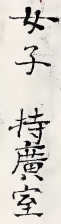
備中守

蘇軾詩集卷之六
元祐二年甲子九月九日蘇軾天禧

18

又淳

淨賢酒并丸唐忠次兄也
酒并丸唐忠次兄也
酒并丸唐忠次兄也



家弘 筑後守 久親 備中守

二葉松云
室飯形赤坂古松
今二葉松内下
松本佐平子親
七次郎

二葉橋
橋豆郡木村
正向寺
一向宗
天皇
臣中納言
為祖

一板念已常為數代小資村之願也享祿年中二松平
大炊助攻此時板念家人之成板念家起而後入大府門
清安之云想此板念生以男八長福村長岡寺之寺

一 大江為大段看終去本末盡之旨
二 河岳後子都富永保今泉安仿并長流而奔進
于肯應永十三丙戌年五月十日自長安得寺書字年
一同一卷與書

三河曲留承今泉芳同長流寄附

一同一卷與書

三河賀茂郡足助庄奥下山村

應永成七年十月八日

一同一卷之書

三州額田郡西熊村天満寺御経

永亨十二年十月吉日

一永正三年土月十二日今川氏觀之河上馬吉田勘之持節吉
 炳を攻落吉炳一切獲其頭今田原之陣今男戸田吉七
 郎在城今後吉炳一男傳義三成吉田勘之返今在城

室版部新野村在信内為木柵圍差
法名法差清水
護政各云所住人信內城上

傳臧瓦

松平上野公改忠仕政忠尾州桶狭間奮討死此皆左帝親爲
手負者之不仕山田長吉小助幸而太師親爲一家也

同新五郎勝宗 元龜三年松月
味方赤子討死

同花八郎勝久

上意を勝久赤子に承永禄六年
一揆より計略より討死

同花之郎正成 後、五郎門
坂より討死

同花之郎正成

一法花之郎正成云山に入り五弘治元年卒云而屋敷備
天助小次郎先愈す而云ふ立出自言云世而自害坂と云
一天文四年十二月廿七日井田合戦之茂林あり河越大花
實家書堂忠植村新六大原九郎太右門傳田源正同家
大久保新八忠俊 後、貞治始とて而卒云 井田中へ
馬赤居へ井田上地と云六百余人討死時高力使中
主長同新之郎安長 細井花八郎猪童を味方二而
五人討死 于時青山赤子又法花討死
始、花三郎、勝久、八郎、正成

一戸田三郎忠次 同花九郎子と戸田源正甥之家康公所
継母トハ後中代也竹子代君を尾刈 赤松と送り中代君を
後田原立退キアハ老田村より一向一揆と時清家より
逃忍ノ一揆方ノ案内ヲ忠次と云

一清康公 清康公市妹招し後有良持康公内儀但
新雲院殿トトス老良持を院迄ナリ

廣忠公

女子 早市場殿始松年上北有政忠城ノ康忠を生
長沢六代目親清ノ以男甚老魚(正次大河内氏の子を養ふ
トス)子家康公 又在赤和名園東と有田ト云云二百人
知り及不之後三別七陣矢田小味云村加保々左衛門云

子子波あさく云云河内守と申後ノ息太田源光氏子賜之
松平任之也後光也大河内守良家人之御家津源也

家康云

女子 三列長次松平上野介康忠公号矢田殿
法名玉峯 兼壽大姉

女子 荒川甲斐守義廣室也

一 三列保久村之坂之田り款一徳斎ト云家康公保久ノ八幡山
内四陣一徳斎坂と申今後河内守山下名を魚とて申多き所
住生田村西橋より末葉ト云
一 天白村ノ院ニ隠岐院ト云之是ハ系隠岐守ト云人最良小
生ニ時不敗也ト云

一 牧野松津守禮谷波布守判物橋井寺ト云
一二品親王三列吉良松西ノ所江流ト云時ニ東福寺住僧一玉所
由見也ト云系三列親王と云在てト云建ト云持小松院
今ノ実相ト云親王ノ法度不取不取安立ト云以附人荒川
殿中御氏来んト云付

一ウニハノ銘ノ字

三川國額田郡瀧川保甚應山萬松禪寺 住持龍沢 信心 施主當國松平和泉入道信光

奉掛鎮守八幡宮御寶前

永亨十二年庚申八月吉日 松平和泉守信光住持龍沢

三列額田郡瀧川保甚應山萬松禪寺

鳥須薩摩守明王

永亨十二年三冊大寺村ノ萬松寺龍沢和尚信光公由依僧

岩津津城近所松村の墓松を移す

當寺開基前泉別月堂信光大禪定門

永正十七年十二月 信忠 在判 為松を有之

一寶徳三年信光明寺開基 寛正二年歎心寺開基

一菅生田中寺入道及授清康公仕を別味方原

にて討死

一丸山村城主源伊賀守次初後市 崇長七年正月七日死

高川豊山居士云是崎三を以て内中多化丸馬介村を

去所成瀬友八

一元龜二年七月七日太福寺丸谷之合戦に同知村松平

右衛門而く村之青山松右衛門中恒元之跡中を承り

秋山下戦才員青山松右衛門討死

一四中各郡家老宮川丸丸馬 後富西尾之城に移し

一柴田六左衛門信大七九帝 廣忠公御代 植村初代 七左衛門 三島孫中山性 有得者 迎 弘七帝

一大須賀圖書

三洲晴雲帳 肥後國に交代仕人吉良家人也

大須賀掃部

同家書康久 孫右馬康重

大須賀書信康高

吉良家康公を別松須賀城主と云ふ説有之然其家系は是に甘

一吉良家亦服招く城を以て橋守御と申す家康公は遂に其甘

賜に由りて延を以て吉良と云ふに改めし故家康公は昔より其

家系に由りて橋守御と云ふに改めし

一 吉良氏小山田村に松井の所を古坂と云

一 三河吉良氏松平 松平 設楽 西郷 菅沼 越谷

戸田 高田 奥平 鈴木 小笠原 水野 車條 星野

三宅 牧野

一 内務監物と云ふ後民興寺の佛の先祖は六百位と云ふ

士地持の所内高に云ふ松平は法人の所と云ふ後民興寺

之城主と云ふ川家 天文十六年三河田原の戦い一番合

津藩城九月五日也同十八年内務監物三河安祥の押寄城

鐵田を生捕する末大坂陣の戦い内務鐵田の戦い大坂の陣

に討死

鰐口ノ銘冢

三河吉良氏西尾市

窮酒井雅樂助政家寄進

永禄七年八月十五日

養生水主藤原宗次

一 吉良氏のカイケ村に富永右京進吉良氏の家老也吉良

没落後ウカ池に引籠てありこの名は源大カウノ名合

家康公御父及云々御父八幡の的八十歳百一中

之國一番之強きなりを家康公御父ヨリ御父の家

康公御父御父の義方といふ計二の中より云々

八十歳之義方といふも云々之義方の名を建立仕度

の寺地なり御父御父の御父の御父の御父の御父

の御父の御父の御父の御父の御父の御父の御父

西尾の御父の御父の御父の御父の御父の御父

一 板崎村大橋五九郎(中)者吉良忠公の子天文十七年四

長村、淺井仁名留に
中人、先程書きたり

3

福壽

本
 とい
 言
 子
 々

忠厚之風

中軍法中侍從之師王龍王右軍所部
第八弟所 作身寫只一處多矣

天印之書西依此

取捨の例に於て金を要するを勝之進下府と爲す

丙近歲傳活字書

家次之勝也彼幕之屬以西尾丹後也

小浦、溪、山、中、秋、五、九、日、一、下、改、意、列、新、代、美、系

新羅市松元孫山
老母年八十有九
民太神戶安云
國利在在府分
國平兩故仁五
當官浦位
名京川再村
小海喜平海
其左也云々
母子柳尔抄書
喜平海

改个四風
改个四風

治

明眼寺

一 松平亮人信忠公常子明昭寺（信忠公常子明昭寺）進狀
大永三年九月十九日 亮人信忠内陶別

明眼寺

一 大湊村（称名寺）信忠公内到物二三通

一 六名村（德川四郎左衛門）信忠公内到物二三通

一 德川七家（云々）新田德川世良田仁木細川荒川

一 荒川甲斐（云々）家康公内到物二三通

仙林院花山洞榮禪定門 吉良公近村（墓松）

永禄九年（西暦）四月念二日

一 天文九年（西暦）十月廿日 酒井与五郎（信秀）家忠定書之

（此信偏手集成）此時内通即津波見一年号符台

一 天保六年正月十六日 酒井与五郎家忠定書之

一 横井寺（天久）二年三月十七日 酒井与五郎家忠定書之

一 武蔵国（城）松平与五郎家忠 大樹と云

一 玉籠寺（海）天久二年三月十七日 所部大樹と云

一 横井寺（天久）二年三月十七日 所部大樹と云

一 永禄三年正月廿日 尾列大寺（信忠）家忠定書之

一 浅井不智（信忠）家忠定書之

一 山川（信忠）家忠定書之

一 所部人（信忠）家忠定書之

一 家康公（信忠）家忠定書之

一 加瀬（信忠）家忠定書之

一 折原（信忠）家忠定書之

一 上人（信忠）家忠定書之

一 徳川家 大御所 徳川家 大御所 徳川家 大御所
 一 徳川家 大御所 徳川家 大御所 徳川家 大御所

と御不仕用と云傍七千人刀槍を絶絨鬼と稱し布
 ちと作のえ牙出ん時とての士のまふ枝とて切
 りけしを御原と云わたり

切むと云ふ刀のりとはとてあしひとてとてとて
 とてとて祖國一人とて御家原と云ふ御家の御家
 云ふと云ふ一戦とて御道とて御道とて御道とて

崎と云ふ御道と云ふ御道と云ふ御道と云ふ御道
 一 松樹殿後信貞大姉 應永三十二年二月十一日逝云 松平親氏公御内室 信貞公

七年和田倉殿と云ふ御道と云ふ御道と云ふ御道
 一 松樹殿後信貞大姉 應永三十二年二月十一日逝云 松平親氏公御内室 信貞公

一 松樹殿後信貞大姉 應永三十二年二月十一日逝云 松平親氏公御内室 信貞公
 一 松樹殿後信貞大姉 應永三十二年二月十一日逝云 松平親氏公御内室 信貞公

一 松樹殿後信貞大姉 應永三十二年二月十一日逝云 松平親氏公御内室 信貞公
 一 松樹殿後信貞大姉 應永三十二年二月十一日逝云 松平親氏公御内室 信貞公

華陽院殿

一月窓清友禪定尼 成八月九日 長親公御内室

玉鏡慈良大姉 永禄二 九月二日 信忠公御内室

一 芳月清春大姉 天文十七年二月十六日 清康公御内室

一 傳通院殿知番客誓大姉 慶長七年九月廿四日 廣忠公御内室

一大樹寺中竹月朝之極井之内 信定公ノ家老堀入道菩提尼

一 大樹寺中竹月朝之極井之内 信定公ノ家老堀入道菩提尼

一 大樹寺中竹月朝之極井之内 信定公ノ家老堀入道菩提尼

一 大樹寺中竹月朝之極井之内 信定公ノ家老堀入道菩提尼

一 大樹寺中竹月朝之極井之内 信定公ノ家老堀入道菩提尼

一 大樹寺中竹月朝之極井之内 信定公ノ家老堀入道菩提尼

天正十六戌云々

天文十九戌云々

不審

水部省門多念奴

大樹寺記云

芳月清春

伊田三平

天文七年二月十一日

塔入石匣

一、書付十六人十名程漢之簿像云者と云ふ類し他種花より

松年堂藏

本多中務女博士信

并得去疑少補虛改

酒并大厨止次

柳永詞話

大久保七郎大照忠也

多承差過元忠

平岩巨計歌

家康公尊像

高木道義

昭如半藏

肉皮部九思

汲邨半藏室

半藏守國ノ
子三箇ノ文也

德川曆代名元信

多難亡而志

采津者藏道降心

大久保氏忠佐

蟬屋半之函貞次

孝進主

汲道内通及之

江系の概に京
丹後を今川
居ハ棟間々
付兒

一 碧海郡小幡村に家大畠村と云ふに正法寺あり之を靈王寺と云ふ

之河記 墨 八ヶ岳 事也 減田家藏

平藏人五而人
古毫天久六年九月十八日
源力之谷戰是之

一 東嶽榮印山之慨、大衆の慨を二宮の政に時、家来

大是少帝城門入城之大彈正之室をそめて討死す

二宮大長と阿久保と云名をあそぶ
江島村橋六江島の上
泉と云

所憂お依と云は家紋きよしのそと着つて風のふり

一、加茂氏の出羽の公ニルヒキノ憾ニ若
加茂玄蕃ト云ハ事荒烈然ト

五ん 爰 於 此 門 致 致 の 凡 内 二 加 ノ 字

先求愛焉
心
存
之
周
并
居
內
劉
志
慶
長
元
年
十
月
廿
八
日
記
於
此

文龜三子羽士而酒井康忠

[illegible]

所多印

代能流

一本多豐

同右馬

同豐法

正助

同天瑞

同豐法

御田郡伊田村城主

酒井九郎尉忠勝

初小五郎又藤五郎

享祿三年庚寅七月

嘉祿元年八月

酒井系圖

廣親

坂井德太郎 母參州技井卿與九郎女
廣親卒法号深受院樂善善神或法号善神

康忠

九郎門尉 嘉吉元年二月八日生
文龜三年正月十六日卒六十二歳玉洞院殿瑞前善嘉

或忠親忠志

忠通

忠喜尼

或忠高忠種

忠賀

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

日記 九条孫神子代孫時
長祿元年七月四日
長祿元年七月四日

一享祿二

一景綱

一常意

一忠茂

一忠利

一忠世

一忠佐

一忠茂

一忠利

一忠世

一忠佐

一忠茂

家次

與四郎
天文十六年正月十六日卒

與四郎 内通外
天文元年十月廿日卒

與四郎 内通外
天文元年十月廿日卒

正親

與四郎 内通外
天文元年十月廿日卒

與四郎 内通外
天文元年十月廿日卒

與四郎 内通外
天文元年十月廿日卒

與四郎 内通外
天文元年十月廿日卒

與四郎 内通外
天文元年十月廿日卒

與四郎 内通外
天文元年十月廿日卒

與四郎 内通外
天文元年十月廿日卒

與四郎 内通外
天文元年十月廿日卒

與四郎 内通外
天文元年十月廿日卒

與四郎 内通外
天文元年十月廿日卒

與四郎 内通外
天文元年十月廿日卒

景綱

宇都宮三郎 尾張寺下郡宗司
永仁五年正月廿四日卒

時綱

宇都宮三郎 尾張寺下郡宗司
永仁五年正月廿四日卒

勝長

宇都宮三郎 尾張寺下郡宗司
永仁五年正月廿四日卒

常善

宇都宮三郎 尾張寺下郡宗司
永仁五年正月廿四日卒

忠興

宇都宮三郎 尾張寺下郡宗司
永仁五年正月廿四日卒

忠茂

宇都宮三郎 尾張寺下郡宗司
永仁五年正月廿四日卒

一、澤十、忠照、二、カト、出ル

不承史（一） 葉田清忠舞ありしに以て不承家新當つて爲也
 下中（二） 下中家新當つて爲也
 主中少原防（三） 書上中家康公授あふ新當つて爲也
 近者（四） 近者家新當つて爲也
 言上中源村（五） 村に九節の鳥に居る仁徳の徳を告げ
 あり（六） ありとてその月より徳あり百人中を安を安とせ
 一不承公（七） 不承公は太皇太后の御代に大過人前より七口作
 派（八） 派は機文の主人根名系に法有るを以て大過人前より七口作
 不承公（九） 不承公は機文の主人根名系に法有るを以て大過人前より七口作
 所（十） 所は機文の主人根名系に法有るを以て大過人前より七口作
 不承公（十一） 不承公は機文の主人根名系に法有るを以て大過人前より七口作
 一不承列女（十二） 不承列女は天守記に云ふ御代に
 永正十一年戊辰三月六日
 中書省御代に候重

- 一 前松州大守一雲了賀居士
（一） 永祿二年正月十日
（二） 永祿二年正月十日
- 右端夏安泰襲を 家老
（三） 家老
（四） 家老
- 一家康公（五） 家康公は太皇太后の御代に大過人前より七口作
（六） 家康公は太皇太后の御代に大過人前より七口作
- 二ノ西浦を情を（七） 情を
（八） 情を
（九） 情を
- ク川源端（十） 川源端は太皇太后の御代に大過人前より七口作
（十一） 川源端は太皇太后の御代に大過人前より七口作
- 佐野小を帝大ら（十二） 帝大らは太皇太后の御代に大過人前より七口作
（十三） 帝大らは太皇太后の御代に大過人前より七口作
- 引りる家を大機仲を（十四） 大機仲を
（十五） 大機仲を
（十六） 大機仲を
- 一家康公（十七） 家康公は太皇太后の御代に大過人前より七口作
（十八） 家康公は太皇太后の御代に大過人前より七口作
- 一林龜之助（十九） 林龜之助は太皇太后の御代に大過人前より七口作
（二十） 林龜之助は太皇太后の御代に大過人前より七口作
- 一永祿四年（二十一） 永祿四年は太皇太后の御代に大過人前より七口作
（二十二） 永祿四年は太皇太后の御代に大過人前より七口作
- 之而永祿五年（二十三） 永祿五年は太皇太后の御代に大過人前より七口作
（二十四） 永祿五年は太皇太后の御代に大過人前より七口作
- 中邦城（二十五） 中邦城は太皇太后の御代に大過人前より七口作
（二十六） 中邦城は太皇太后の御代に大過人前より七口作

地之南、永生寺、常光勝金の城あり。出戦せし死る者、計數
 徳玄とて俘虜たりしは吾族の本を失ふ海ノ老良の
 末城より來り、敵多きを討たば、我祖ハ永祿七年（穆之
 時）家康公之所死也。故に山王系第六角雲之族中心長繩
 城之大河内中見寺津大河内合五

查良十七个家人 少差系在馬石系大橋看東中五帝忠元
大河内右馬元系蘇露内 在陽瀨戶江帝川上各本又
会道水金元馬大像王河一色松井如筑

後一
矢田氏八奥別名田利友田邊之助也
和田八家成也

第一 第四 第五 第六 第七 第八 第九 第十 第十一 第十二 第十三 第十四 第十五 第十六 第十七 第十八 第十九 第二十 第二十一 第二十二 第二十三 第二十四 第二十五 第二十六 第二十七 第二十八 第二十九 第三十 第三十一 第三十二 第三十三 第三十四 第三十五 第三十六 第三十七 第三十八 第三十九 第四十 第四十一 第四十二 第四十三 第四十四 第四十五 第四十六 第四十七 第四十八 第四十九 第五十 第五十一 第五十二 第五十三 第五十四 第五十五 第五十六 第五十七 第五十八 第五十九 第六十 第六十一 第六十二 第六十三 第六十四 第六十五 第六十六 第六十七 第六十八 第六十九 第七十 第七十一 第七十二 第七十三 第七十四 第七十五 第七十六 第七十七 第七十八 第七十九 第八十 第八十一 第八十二 第八十三 第八十四 第八十五 第八十六 第八十七 第八十八 第八十九 第九十 第九十一 第九十二 第九十三 第九十四 第九十五 第九十六 第九十七 第九十八 第九十九 第一百

日江米

一 渡り村孫太郎の娘おたけと市丸の家康公に沙乳の上り

一三列傳至秋松爲之人松并金比帝と申口其子初名松并たぬ
忠次

一 家康公任職公使船去吉田島看岸山和馬之勝是海田岸
去那小嶋々々海島地々々々如前夜不月候々々友
想々々々々水不富只左渡邊思富人々々々々

奉造立能所之新校現由社
天祐帝紀政次

文明七乙

額田縣中山鄉田保

大正藏經卷之九
光緒

奉造五天王社

穎田縣中山古剎村之宮棟札

永正十二年乙丑二月中旬
願之松年修院進長則

一渡辺忠右衛門之弟也。幡之疑赤羽根城之守將。与助
作。幡之弟也。公亦兄也。在因。以改。新。武。氏。所。建。村。

高洲初之節は舟浦地乞ひし高橋より石橋橋を渡り
 耆老及中燒痛し多免余多老巡り一村に出入り
 返拂ふ酒波

一岩破ハ之者分三皇社清原公也

一大高城分家屋云大樹子_下出入_二節出_三後十_四々_五三角

多病中
忠度

松浦八帝
勝若吉更全
松浦若八帝
時勝

月夜五言

石川十常雄 正成

青山秀水

忠多而助信優
忠多平而忠信

松平大炊助好宗

世好景衆人之浦平之而一揆上戰テ討死ス

丁巳仲夏

一西光院殿政岩秀貞大姉

天正七年 卯八月廿九日
築山殿遠別濱松西東陵而御自宮投祐
傳寺 濟尊牌有神明ト勸請ス

一前參別達岩善通大居士

同年八月十五日二朕二十歲而沛生喜園嫡根石寺
觀音三木三苑三分三奉三生三八幡宮ト歡請
園嫡城代石川尚若守教政御社造立

寬永十年即社再建
欠村郷士柴田衛守願主也

一
仁木村古城

仁本哉後也

一
同
古
城

春日井と名づ

一 細川村古城七ヶ所

細川次席義秀

是今武藏与賴之遊其代細川郷与生家老小玉右京

一
固村之内

大樹を判形し内
細川昭而救世

一 同村之内年々盛成

上原 齋 文 秋 松 氏 家 老 長

一
同村

松年源氏

- 一 磯形村丸根
- 一 井口村古城
- 一 百々村古城
- 一 西河知和村
- 一 東阿知波村古城
- 一 同村 安芸院
- 一 川名村屋久
- 一 保久村古城
- 一 第河内村古

冬河内郡
 磯形村 磯形
 井口村 井口
 百々村 百々
 西河知和村 西河知和
 東阿知波村 東阿知波
 同村 同村
 川名村 川名
 保久村 保久
 第河内村 第河内

- 一 松平坂
- 一 赤白大納言
- 一 青山
- 一 松平太馬
- 一 内友
- 一 桑谷
- 一 日下一德
- 一 山下
- 一 松平

- 一 伊賀村古城
- 一 井田村古城
- 一 大井能村
- 一 花屋村
- 一 小呂村
- 一 田口村
- 一 板田村
- 一 岩屋村
- 一 麻生村

伊賀村 伊賀
 井田村 井田
 大井能村 大井能
 花屋村 花屋
 小呂村 小呂
 田口村 田口
 板田村 板田
 岩屋村 岩屋
 麻生村 麻生

丁酉年尾

卯十郎

一 磯越村丸根古城

信玄公御書 松平貞元堂之御書

一 井口村古城

赤白大納言

一 西河知和村古城

青小左衛門

一 東阿知波村古城

松平右衛門

一 同村 安芸院

山友源氏右衛門

一 川名村屋敷城

桑谷孫之助

一 保久村古城

三浦七左衛門

八幡山少路友信

日下一徳村

後山下左衛門

一 糸河内村屋敷城

山下左衛門

七續之七

近友源藏

金足平左衛門

赤白氏

一 能見村古城

信玄御書

松平忠常為親

一 伊賀村古城

松平忠常

松平忠常御書

一 井田村古城

酒井九郎尉

一 大井能村

中山七左衛門

松平忠常御書

一 花屋村

中山七左衛門

松平忠常御書

一 小呂村

中山七左衛門

中根平左衛門

一 小呂村

中根平左衛門

一 田口村

荒尾田村方福也

中根日野目

遠所寺為村記

同中

一 板田村

中山七左衛門 小豆坂方村記

天守寺為村記

一 岩屋村

中山七左衛門

天守寺為村記

一 麻生村

中山七左衛門

天守寺為村記

丁酉年尾張方村記

助十郎

一 伊賀村 古城

松平忠之丞

松平忠之丞

一 井田村 古城

酒井九郎尉

一 大井地村

中安七郎

中安七郎

一 花屋村

中安七郎

中安七郎

一 小呂村

中安七郎

中安七郎

一 小呂村

中安七郎

中安七郎

一 田口村

中安七郎

中安七郎

遠別

同

同

一 板田村

中安七郎

中安七郎

一 岩屋村

中安七郎

中安七郎

一 藤生村

中安七郎

中安七郎

丁酉年

助十郎

天師右衛門造血

天師三郎兵衛康景

天師甚右衛門

天師三郎兵衛康景

天師三郎兵衛康景

三木三水

松平十郎三郎衆孝
大津

本及典之後也

久世

大正係大正加賀也

松年孫七郎

松平紀伊守

松年之殿

松平七郎

松年甚之

河部豐之俊

井上河内守

久世大和古廣人

本多純忠 氏

十席

卷州幅是都戶崎村
信光公御筆

十席

大河内金糸

田氏

卒多平八

一 本谷村廣忠寺由志書

二系松云

光中寺二在

冰名即德母廟

大婦戶田氏女

松年公事感

廣心寺書

10

素谷村に愛地内家作
石持殿小母云々
幼古殿出二一而前被

張氏金刻

一喜溪東谷村 出母云反 出能云 出六反 出同 後云 出合 骨

此山生於... 乾隆元年... 月... 日... 時... 刻...

成世後、大の改行を代別の中、
 大板、壬午年中、長崎、
 解政、船用、伐、
 子細、

神主 市川三之丞
 社人 市川三之丞
 市川三之丞

信光子
 大徳王
 松平加賀守 父、母、三牛生
 天文六年四月十九日、
 松平加賀守、父、母、三牛生

松平加賀守 父、母、三牛生
 天文六年四月十九日、
 松平加賀守、父、母、三牛生

松平加賀守 父、母、三牛生
 天文六年四月十九日、
 松平加賀守、父、母、三牛生

松平加賀守 父、母、三牛生
 天文六年四月十九日、
 松平加賀守、父、母、三牛生

大久保平太夫
 谷村 陽七

親忠公二男

加賀守 兼元

三郎太夫 兼清

久太史 正
 出雲 兼高

家老代、加納、

監物

一三河國寶版、
 一條院、
 開基、
 寺像、

不勤歟

寂照入定後年幾良冬疎念為攝時飛入道堂乃
殿通紫微門暫止又家弄一語乃去其意也
改其時教云不持不勤明主之靈像山内又安
其新之不勤坂と云中より後延徳年中此所
後院尾別乾坤院芝園禪師の法嗣と案和尙を
与為閑山始白曹洞より其後半

一 永祿七年 東照大社足尊坂山陣之時常寺住持
危殆之舞羽を賞与せし勸上りて乃亂陣之形
中に入申及當山段面より飛脚横垣ふ斜當山の
記本此乃其遊山由記也慶長八年 御朱宗より
其宅より其子より常寺住持と云坂陣之時
山内在忍く働仕
ゆとの事と云る也此石井境内に在る附
り下り其

上為寺中より其記を佛之田沙記後
其字を西ノ字と改め依 御朱宗より西順寺
中より其記を西ノ字と改め依 御朱宗より西順寺

寺名順

一 御朱宗より其記を西ノ字と改め依 御朱宗より西順寺
其記を西ノ字と改め依 御朱宗より西順寺
其記を西ノ字と改め依 御朱宗より西順寺

一 常寺八尾別法川村乾坤院より其寺門前より其寺
其記を西ノ字と改め依 御朱宗より西順寺
其記を西ノ字と改め依 御朱宗より西順寺

三河守大江定基入道田通大姉寂照ハ平城天皇ノ後亂
參議太史江齊先ノ第三子ニテ和漢ノ才アル人也人王平
六代一條院ノ御宇三河國司ニ任セラレテ此國ニ下向ニ寶
飯郡久保郷ニ在極セリ國政ノ暇ニ赤坂ノ里ニ力壽寺ト云遊君ヲ召寵愛セシカ力壽宮クナリシカハ定基愛
別ノ悲ミ又ハ難ク七日ノ間死骸ヲ留テ其宛相ノ轉變ヲ
見テ俄ニ無常ヲ觀ミ入道ノ志ヲ起セリ力壽ノ死骸ヲ
葬テ其古根ヲハ文殊山ノ頂ニ埋テ力壽山古根寺ト名
クテ其財寶ヲ其後定基比叡山横川ノ慧心僧都ノ第三子ト
ナリ寂照法師ト号ス長徳元年三河國八幡村ノ山中草
庵ヲ結テ住居セリ是ヲ六光寺ト名付ク其後最則寺
入道時頼行脚ノ次ニ此寺ニ富居セラレテヨリ六光寺ヲ改

テ最明寺ト号シ禪宗ト成寂照清涼山ニ居ラル時衆僧池
中ニ向テ拜ス寂照ソノ由ヲ問レケレハ衆僧答曰八万四千ノ石
塔ヲ阿育王立ラレシニ日本近江國蒲生郡渡り山ニ其内ノ
一基アリ朝日ニ映メ塔ノ影比池ニ移レ故ニ礼拝スト云ヘリ
寂照此事ヲ書メ箱ニ封ノ海中ニ投入ル明石浦ニ寄ル増
位寺ノ住僧見出メ奏聞ス有延ヲ諸本ノ光延ト云獵人アリ
本願成就寺ノ本尊ニ祈ル

茅屋無人技病起 香炉有火向西眠
笙歌迫聽振雲上 聖衆來迎落日前

雲の上のひかりふかしのきこえひもやうくひひくみりほ

義家

義國

義康

義宗

義氏

領三河国居西尾城号吉良家

附曰三河守義氏依病氣三川西尾隱居從三位禪尼賜友加元
鑒切凡兩叙源家重代之白旗始築西尾城而奉納之号御
飯八幡宮又築東城建長六年甲寅年十月廿一日卒号高隆
寺殿正義公

長氏之孫荒川四郎貞弘居荒川城今八面山是也遠別高
橋城主中神藤左衛門尉利輝者貞弘九世之後胤而世々荒
川之家老也

吉良東城持備三男
母平清康公ノサリ

牧野新次郎ヲリ守ラシム東城主吉良義照ハ今川氏ノ帰眼ニ徳川家トテ
及フ泰ニ依テ四月ヨリ東城ヲ政討交々急テ荒川ハ酒井正親ニ仍テ徳川家
ト親ミラ各ス正親ト同ク西尾ノ城ヲ攻メ牧野貞弘西尾ノ城ヲ出奔ス正親ハ西
尾ノ城ヲ賜フ此役ヤ利輝謀至タリ徳川家今度荒川家ノ忠功ヲ御感有
テ御始君ヲ義等公ニ遠サレ

然而永祿七年甲子有故荒川家断滅焉義等利輝奔
テ河内其後義等上栖死手天野山下利輝不和所終義
廣君者利輝之長男利隆入道了清奉養之永祿十
年卯九月廿九日病死子寄近村粹熊子山貞成寺号
鉄性院殿了勘大居士利隆妻大塚氏其子藤左衛門
利貫慶長六年本多縫殿元遠別小笠原ヨリ守テ西尾
城同年八月使奈和九郎右衛門召之

終

此書多別類田郡友生松持寺奉前藏人家藏也
藏人^在高祖父中^間三^部正^部鎮^部八十七歳也^受
書^を花^人去^加後^みる^古書^を花^書家^に安永五年
丙申秋^に翌^六年^丁酉^春至^花人^に松持寺^に
奉^りて^お濟^公裁^江戸^に府^為松^士七^在番^再
集^ふ此^書を^傳交^ふに^上

依沼松松誌

右爲松士^の傳^交書^に上^に

安永六年卯月福若松家



右^に列^額田郡友生本間氏^受書^一冊^青山
下^に守^藤原忠^義之^家氏^依流^教馬^房松^士
藤^本也^天明^七年^辛卯^月廿^七日^右爲^松士^上
番^に派^流招^上爲^之居^宅元^村派^英茂^氏
公^爲松^士と^並活^々上^傳交^ふ翌^八年^甲子^月
廿^四日^辰分^に守^初日^同九^日夜^に上^年此^書
青山氏^に由^諸未^出る^に依^てあ^る他^之不^可
有^とや^そ有^る青山氏^出書^不知^るに^ある^所
と^又そ^の姓^と系^を引^附め^ある^には^しめ^る
ま^じり^せる^所有^るに^ある^に断^るに^ある^に
可^る青山氏^出書^不知^るに^ある^に一^回に^ある^に
了^る日^性外^の青山氏^に致^する^にあ^るに

一 武德大成記三河六代松平信忠君御隠居ノ支信忠君身持不置
ヨリテ也千騎信忠君ノ御舎弟與市市後内膳信忠ヲ以テ家ヲ
継カシメシト諸士云フ其時林茂上而酒井徳右衛門宇津之而
右衛門等ノ收人共懐合ニ同心セズ終ニ信忠君ノ嫡子清康君
僅ニ十三歳之幼君トイヘル家留ニ定ム時大永三年ノ事ニ佐川
歷代ニ大永三年四月ト見ユ

一 岡崎源五郎信貞下清康君合致ニ及フト云フトキ宇津右衛門而
忠茂謀ヲ以テ山中ノ城ヲ築リ而ル共時信貞ノ娘ヲ以テ縁

一 文龜元年九月長親君々川氏祝山條長氏ト致ヒ玉フトキニ宇
津之而右衛門長親君ノ嫡子信キアリ且林茂上而酒井徳右衛
門右衛門ト同陣餉キアリ

大永三年四月

